



角館中学校の地域学校協働活動「桜案内人」

～地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくり～



4月18日、ソメイヨシノが満開の頃でした。角館中学校3年生による「桜案内人」の活動を参観させていただきました。生徒たちは総合的な学習の時間に桜並木や武家屋敷について調べ、数人のグループで観光客を案内できるように準備してきました。説明の仕方の指導から関わっている地域学校協働推進員さんたちのサポートを受けながら、立派にガイド役を務めていました。観光客は旅先で得たうれしいサプライズ体験に、満面の笑みを浮かべていました。

県南社会教育主事連絡協議会総会・第1回研修会

5月16日、雄勝文化会館オービオンに県南7市町村の社会教育に携わる職員の方々が集まり、今年度の連携体制を決議しました。研修会では、湯沢市の家庭教育支援チーム「和輪人（わわっと）」の後



藤孝氏、音楽のまちゆざわ推進協議会の大野多加志氏にそれぞれの活動を紹介していただきました。最後は原田梢氏によるピアノミニコンサートを鑑賞し、心癒やされるひとときを過ごすことができました。湯沢市教育委員会の皆様にはたいへんご難儀をおかけしました。



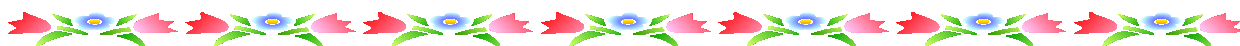
アドバイザーコラム

『生涯にわたって読書に親しみ、心豊かに』

県では、本を通じて自分の生活をより豊かにすることのできる子どもを育むために、「つながり、広げる子どもの読書応援事業」を実施する。具体的には、「読み聞かせボランティア養成講座」と「学校図書館活性化支援」、「中学生・高校生ビブリオバトル大会」の各事業である。事業実施の背景には、子どもと本をつなぐ人材の継続的な確保、小学生・中学生・高校生と校種が変わるにつれて低下する学校図書館の利用率、高校生になるにつれて低下する読書への関心度合いといった課題がある。この事業は、県教育庁生涯学習課が事務局となり、各市町村教育委員会と連携して実施されるが、南教育事務所社会教育チームとしても、県南地区子ども読書支援センター機能を充実させ、「生涯を通じた読書活動の推進（「新秋田元気創造プラン」基本方針から）」を図っていききたい。

「紂く」には、社会教育アドバイザーコラムを6回掲載予定である。県主催事業だけではなく、子どもから大人まで、全ての県民が読書に親しむことを目指して制定された「県民読書の日（11月1日）」のイベント等をはじめ、既に全ての市町村で策定済みの「子ども読書活動推進計画」に位置付けられた特色ある取組を取材させていただき、紹介していききたい。

※標題『生涯にわたって読書に親しみ、心豊かに』は、「第3次秋田県読書活動推進基本計画（令和3～7年度）」の基本目標である。



令和5年度末の事業から ～とっておきの学びの場をご紹介します～



大仙アカデミー

3月2日、大曲市民会館において「第5回大仙アカデミー」が開催されました。講師は「大曲の花火」の年間スポンサーでもあるエイブリック（株）の取締役会長石合（いしあい）信正氏。多様な人材が活躍できる「筋肉質」な組織の作り方や社員の能力を飛躍的に高める仕組みについて、大勢の市民が聴き入っていました。若い世代の受講者も多く、主体的に質問しながら学びを深める姿が印象的でした。

わらの文化 交流の集い



同じく3月2日、美郷町屋内スポーツ館では「第6回 わらの文化 交流の集い」が開催されました。「美郷の手しごと、わらの文化を次世代に」のキャッチフレーズの下、参加者の方々は千葉大学名誉教授宮崎清氏の講演を聞いたり、大田区立郷土博物館学芸員の小室綾氏の麦わら細工ワークショップに取り組んだりしました。ふるさとの原風景をつくる「わら」を通して人々の交流が生まれていました。

なるせ芸術文化祭



3月24日、第13回を数える「なるせ芸術文化祭」が地域交流センターゆるるんで開催されました。ステージでは、成瀬仙人太鼓の迫力ある演奏から始まり、合唱や踊り、ギターの弾き語り、昔語りなど、様々な演目に来場者が大きな拍手を送っていました。展示スペースでも、絵画や書道作品、工芸作品、方言川柳など、生涯学習教室に参加している方々の力作が並んでいました。1年間の学びの集大成を披露する機会をもつことにより、日頃の学びへの大きな動機付けとなっていることが感じられました。